会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2011年12月号

千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpine Federatio

2011年12月1日発行　通巻224号（毎月1回発行）

年末・年始の山行は

計画書つくりから

12月号 目次

12月号目次		2
私の一名山「丸山岳への想い」	吉田 哲治	3
花博士の花便り	中原 記代治	4
モンブラン敗退記	小松 政夫	5
ハイキングリレーエッセイ	安彦 秀夫	7
第20回 支援活動参加お礼	吉田理事長	8
大震災ボランティア参加報告	手塚 春雄	9
ちばニュース 感想	ちば山の会 H氏	10
45周年記念トレッキング報告	村尾 憲治	11
2011年事故防止交流集会報告	教遭委員会	14
第5回ワンコイン講習会報告	女性委員会	15
千葉懇話会活動報告		16
県連たより		17
予定表		18

私の一名山について

今月の「私の一名山」は、吉田理事長にお願いし、会津・丸山岳への永年の想いを書いていただいた。

会津・丸山岳はマイナー名山として親しまれている。マイナーの山とは、登山道がなく、残雪時の藪こぎ、沢筋を詰めて行くなど、体力・読図など総合登山技術がしっかり出来る人の憧れる山であろう。

メルガ股沢・大幽沢西ノ沢・北沢などから滝やゴルジュを楽しみながら着いた頂上は池塘がきれいな湿原である。会津朝日岳・浅草岳への縦走路、遠く会津駒ケ岳まで続く稜線が印象的である。

丸山岳の山頂は、展望といい、雰囲気といい、本当に素晴らしいところだが、ガイドブックには、藪こぎ・沢筋からの登頂などマイナーな山として紹介されている。支援活動の先頭に立ち、現地作業を黙々行っている後姿にピッタリの山、まさしく理事長好みの山である。・・・のだろう。

編集委員会(danp)

私の一名山

丸山岳への想い

吉田　哲治

会津丸山岳の名を初めて目にしたのは、たしか、大内尚樹氏の大幽沢西ノ沢の記録を読んでからだと思う。そこには、困難であるはずの沢の遡行記録そのものよりも、創玄なる会津の山懐深くに存在する一つの山への想いが切々と語られていた。その記録を読んでから、ぜひそのピークに立ってみたいと思い一人車を走らせたのが、今から 20 年くらい前の秋だった。目指すはもちろん西ノ沢、単独で越後や奥利根の大きな沢を何本か遡行している頃だったので遡行そのものにはそんなに不安はなかった。しかし、あいにくと初日は雨、それもかなりの降雨だったのでやむなく停滞。そして翌日も無常の大雨、沢の入口くらいを偵察してむなしく帰ってきた苦い思い出がある。それ以来、何度か丸山岳の計画はあったものの、結局は訪れる機会を逸するうちに月日は流れていった。

その丸山岳に 2009 年の秋、船山の仲間 4 名で登ることができた。何としても今回は丸山岳のピークを踏みたいと、ルートは易しいメルガ股沢よりのピストンとした。憧れの丸山岳に登れたのは望外の喜びであったが、あいにくと氷雨の中で楽しみにしていた眺望もなく、あまりの寒さにそそくさと頂上を後にしてしまったが、ガスのなかの池塘の点在するピークもまた、幻想的ではるかな地を演出するには十分だったろう。また、沢も会津の沢にふさわしい優しい穏やかな流れがそこにあった。

氷雨の中の丸山岳訪問から一年たった昨年の同じ秋、霧がかかったなかの丸山岳も幻想的でありそれなりの創玄な雰囲気を十分に味わうことはできたが、やはり、涼風に吹かれて、のんびりと草原のなかに池塘の点在する山頂でひと時を過ごしてみたい、そんな思いで再び丸山岳の計画を立てた。沢は、今回こそ大幽沢西ノ沢から辿ってみたかったのであるが、ここは人気のルート。三連休の喧騒を避け、静寂を求めて前年と同じ奥只見ダムを基点とする袖沢の北沢から入り、メルガ股沢を下降する周回ルートとし、6 名の参加を得た。

北沢は適度に滝やゴルジュがあり、三連休というのに我々以外には会う者もなく、十分に楽しめた。そして、今回は天気に恵まれ、やっと晴れた中での丸山岳に身を置くことができたのは喜びである。草紅葉には少し早かったようであるが、それでも、池塘の点在する山頂には思い描いていた風景がそこにあった。尾瀬や会津駒から窓明山の稜線、反対側には東北の山々が広がりいつまで眺めていても飽きることの無い眺望だ。

登山道の無い丸山岳は沢から主に登られているが、最近人気がでてきているようで数Pに会い、その中にはちば山の仲間がいたのにはお互いびっくり、彼らは大幽沢東ノ沢から登ったそうだ。

2 年続けて登ることのできた丸山岳、天気次第で違う表情が見られたのは幸いだった。今年は大幽沢西ノ沢から辿りそのピークを踏む予定であったが、震災復興のお手伝いでそれも来年へ持ち越しとなった。さて、今度はどんな表情を見せてくれるのか、今から楽しみである。

花博士の花便り

中原　紀代治（ふわくハイキングサークル）

サザンカ（山茶花）　ツバキ科

事故防止交流会がさざんかの家で開催された。名前の通り、庭に山茶花が咲いていました。堅い木ですのでザイル結びの止め木に使われました。

童謡のたき火は、「さざんか・さざんか咲いた路、焚き火だ、焚き火だ、落ち葉焚き・・」私の年代では、誰でも唄える歌です。

山茶花は、暖地の山地（山口県、四国、九州以西）に生える、日本特産種です。木の高さは、５～６ｍになり、花弁は５枚で白い花に少し紅色が入る花でバラバラに散るのが、椿とちがう特長です。故郷の鹿児島では、カテシと呼ばれていました。

最近、公園や庭木にするサザンカは、園芸種が多く、花色は白・赤・ピンクなどで花弁も、一重から多重咲などあり１０月末から咲きます。

カンツバキは、名前は椿ですが、八重咲きで山茶花と同じく花びらはバラバラに散るので、サザンカと呼ばれています。庭木や公園で良く植えられるカンツバキも園芸種が多く、樹高が低く１２月から２月まで咲く花は、カンツバキの花の様ですが見分けは難しいので、すべてサザンカで通っています。実は、椿油と同様に絞った油は、化粧用や食用に使われます。良い花があったら、挿し木で容易に増やせます。

＊ピンクの花は、挿し木で増やし１５年生、私の自慢の毬咲きの変種です。

冬に咲く花は少ないですが、私は、シモバシラの花（氷の花）が好きです。近いところでは、冬至にダイヤモンド富士の見られる高尾山、陣馬山などがスポットですが、氷点下の寒さがないと見られません。

（さざんかの家のサザンカ）

（訓練のお手伝いのサザンカ）

お詫びと訂正

11 月号の「花博士の花便り」で紹介した、写真が「秋　桜」となっていました。正しくは「１０月桜」です。投稿者の中原さん　大変申し訳ありませんでした。
訂正してお詫びを申し上げます。

モン・ブラン途中撤退

小松　政夫
（千葉こまくさハイキングクラブ）

７月 14 日はフランス革命記念日。自転車のツールドフランスやフリークライミングの大会など各種イベントがある。７月２日から 16 日の間モン・ブランに登るべくシャモニーを訪ねた。

登山１日目（7/11）。　シャモニー南方約 8Km の村レズーシュからロープウェイでベルビュウ（1790m）に上がる。登山電車に乗り継ぎ終点ニ・デーグル（2386m）で降りる。歩き始めると右手にビオナッセイ針峰と氷河を見る。尾根道を登り雪原に出ると上部にはこれから登るエギュー・ド・グーテの岩場とその上に建つグーテ小屋が見える。雪原を進みテートルース小屋で休憩。此処まで２時間半。小屋から上は岩と雪の尾根でヘルメット、ハーネス、アイゼンを付けガイドとロープで結び合う。最初の難関はクーロアールのトラバース。頻繁に落石があるので迅速に通過する。この後は岩と雪の急な尾根がグーテ小屋まで突き上げている。この日は条件が良かったので途中からアイゼンを外した。ガイドがロープの弛みを取るため絶えずチョンチョンと引くので早く歩けの合図かと思い、つい焦ってしまう。

小屋に近づくにつれ傾斜は更に増しワイヤーロープ、鉄製ステップに頼る。登りきった所がグーテ小屋（3817m）、崖縁に張り付いている。テートルース小屋から２時間半、標高差 650m。モンブラン登山の核心部。13 時半着。かなり応えた。小屋に着いたら何とベッドは満杯とのこと、２人の現地ガイドは下山すると言い出す。日本からのガイドは管理人と「予約してる筈」と談判するが水掛け論。夕食後食堂の床に寝られるとのこと。小生の士気は一気に萎えてしまう。夕食までの間、外は場所が無いので食堂で過ごす。明日の登山について天候、装備など話す。危険なのは登頂しての帰り、小屋に戻り、やれやれと安心し、ふっと気を抜いた折に下りの岩場で躓いたら---など。

夕食は 18 時から１回目が始まる。我々は３回目と言われていたが１回目に変更してくれた。濃厚な野菜スープとチーズ、チーズを小さく切りスープに入れるととろりとなって実に美味。メインは焼き飯の上にポークカレーが載せられたもの。これも美味い。デザートはよく冷えたカスタードプリン。そのうちガイドのドミニクがどう話を付けたのか 5 人分の寝場所を貰えることになったと言う（註)。足りないが何とか詰めてマットの上で寝られることになった。翌朝は早いのでトイレが心配だ。長時間行動のためには体調を整えておかねばならぬ。トイレは外にあり、崖の縁を歩き、鉄製グレーテイングの階段を下りた所。手すりは有るが床は凍結しているので夜間は転落しないように注意を要す。トイレは初めて見るタイプで大きな四角錐を上下逆にした形。その縁に後ろ向きに立ち、左右の手すりにつかまり屈みこむ方式。実に恐ろしい。

夜半小用に立ったが星空が見事で明日の天気は期待できそうだ。

２日目、登頂日。　1 時 30 分起床、2 時朝食。食堂は早くも登山者で溢れる。ココアとパンを呑み込んだ後小屋の前の狭いスペースでハーネス、アイゼン、ピッケルを着ける。

ガイドのドミニクとロープで結び合い 2 時半出発。天気は良好で寒さもさほどではない。しかし帰路の長い道程の後の岩場の下りを思い、途中のドーム・ド・グーテ迄とする旨ガイドに伝える。

小屋の裏からいきなり氷結した急登が始まる。真っ暗な雪の斜面をヘッドランプの光を頼りに前を行くガイドの足元とロープだけ見ながら進む。時々彼がロープの弛みを取るためピクピクと引く。スタート時に「私は 72 歳だからゆっくり歩いてくれよ」と言っておいたが OK と言いながら結構早い。小生はことさら息をゼイゼイ、ハーハーやりながら付いて行くがなかなか休もうとは言わぬ。歩きながらザックからの管の水で喉を潤したがこれは大変有効だった。4 時 30 分頃一寸したピークに着き休もうと言う。暗いので周囲は何も見えないがそこがドーム・ドウ・グーテ（4304m）だった。この先は下りとなり 10 分でドームのコル、その先 30 分登りバロー避難小屋、更にその先 2 時間で山頂（4810m）。グーテ小屋から山頂まで 5 時間。下りはグーテ小屋まで 2 時間、その先ニ・デーグル駅までの岩場が 3 時間。従い山頂を往復するともう 8 時間歩くことになる。標高差は 500mであるが重い装備、高度、帰路の岩場に対し年齢、体力を考えると無理しない方が良い。彼はもう少し先まで行かないかと勧めるが「充分満足した、此処で充分」と言い、矢張り下る事にする。

下る途中 5 時半頃右手東方モン・モデイ方面が明るくなる。登る時はわからなかったが雪庇に近い所を歩いていた事を知る。6 時にグーテ小屋に帰着。ピッケル、アイゼンから開放され休む。

岩場の下りでは何度もドミニクに「前を向いて立って歩かないとルートのマークを見失う」と注意されたが険しい所では恐ろしいのでつい後ろ向きになってしまう。クーロアールを横切る際は再びアイゼンを付けた。無用と思ったが此処で 2 年前 2 人の日本人が死んだと言う。ガイドの心配は当然だ。10 時半ニ・デーグルに着き、電車とロープウェイを乗り継ぎレズーシュ着。彼の車でシャモニーのホテルに正午前に帰着。今回山頂は踏まなかったが満ち足りた気持ちで彼と別れた。又何時か彼と一緒に山を歩きたい。

（山小屋はフランス山岳会が所有、管理をする。食堂の運営は民間の業者による）

ハイキング委員会リレーエッセイ

遠足は“ごくろうさん”へ

東葛山の会　　　安彦　秀夫

小学校５年生か６年生の恒例の遠足の目的地は、私が住んでいた町<岩手県水沢市姉体町）から、学校から、自宅から、南の方角にいつも見えていた『山』でした。

当日は、確かバスだったと思いますが、山の麓まで行き、そこから元気に任せて山頂目指して歩いたような気がします。

その時、クラスメートと何を話しながら歩いたのか、何を思いながら歩いたのか、どんな景色を眺めながら歩いたのか…殆ど記憶に残っていません。現在の山好きになった私を想像すらできませんでした。

そして山頂から何を眺めたのかも、何にも覚えていません。ただ、自分たちの小学校を捜し、見つけられなかったことだけが、ぼんやりと記憶に残っています。

父の妹が嫁いだ先が近くにあり、冬休みには一人で泊まりに行き、よく家の前の坂道で特製の橇で遊んでいました。従って、往復のバスで近くを通った時、なぜか、クラスの皆に「知っているよ！この辺は！」と言って、はしゃいでいたような記憶があります。でも、それも定かではありませんが…。

高校までの地元に居る間、そして、その後は、帰省する度に眺めてきました。就職して千葉県民になった後、殆ど車で帰省していましたが、この山が見えると、「あ～、故郷に帰って来たんだなぁ～」と、いつも思っていました。

今でも、東北自動車道で岩手県に入り、右手にこの山が見えた時は、なにかしらホッとした気持ちになります。

今年、平泉の中尊寺や毛越寺等が世界遺産に登録されましたが、その平泉から東に見える大きな山こそが、この『山』です。山麓を北上川がゆったりと流れています。

これまで、山登りを趣味として日本全国の山々を歩いてきましたが、どういう訳かこの山には遠足で行って以来、登っていないのです。帰省の機会をみて色々な東北の山に行きましたが、なぜかこの山には、２度目のチャレンジはしていなかったのです。

いつか帰省した際に、この故郷の山に是非とも足を延ばしてみたいと思っています。そして、あの小学校時代に何を感じたのか、何を眺めたのか等を確かめたいと思います。

この山の名前は、**『東稲山（多和志根山）（たばしねやま、たわしねやま）』**と言い、**標高５９６ｍ**です。だから、**『ご（５）く（９）ろう（６）山（さん）』**なのです。

山名は、『稲束がたわんでいるように見える山容』に由来し、『ツツジ』の名所として知られ、また、『陸奥の東山』とも呼ばれ、藤原清衡が桜１万本を植えたと伝えられています。

西行の『山家集』にも、『ききもせずたはしね山の桜花吉野の外にかかるべしとは』と歌われています。

世界遺産『平泉』を訪れた際には、是非足を延ばして見てはいかがでしょうか？

但し、現在は、山頂近くまで車道が通っていると聞きますので、山歩き（登山）の対象にはならないようですが…。

天候に恵まれれば、山頂から高山植物で有名な『焼石岳』や『栗駒山』が、西方に望まれるはずです。

私の故郷の山の紹介でした。

第 20 次支援活動報告とお礼

理事長　吉田　哲治

千葉県連、吉田です。
今回の石巻支援はお疲れ様でした。
6つの会より28名のご協力をいただきました。
ありがとうございました。

今回は今年最後の支援となりました。
4月の初旬より気仙沼から入りました千葉県連の人的支援、5月中旬からは石巻へと支援場所は変わりましたが、継続した支援は第20次の今回まで変ることなく続き、千葉県連の連帯の証となったかと思います。
来年の2月（2/18～19）より支援は再開予定です。
1年になる3/11を迎えてもなお、千葉県連としては NPO 法人を立ち上げ、息の長い継続した支援を続けていきたいと思っています。
今後も、ご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

第20次　6会28名　全員集合

支援活動の継続にご協力をお願いします

理事長の報告にもありますが、千葉県連盟では支援活動を継続していくために「NPO法人」の立上げも検討して行く事を確認しました。
震災直後の、4月より多くの会員の皆様の参加をいただき、全国に先駆け気仙沼・石巻を中心に支援活動を行ってきました。
参加した会・参加者の熱い思いと、被災された皆様と心の通い合う支援活動を継続するために、現地との協議を行っています。
今後も、新たなご協力をお願いします。

千葉県連　会長　広木　国昭

大震災ボランティアに参加して

東葛山の会　手塚春雄

今回、東葛山の会では高見さん、中村さん、加藤さん、八巻さん、手塚の５人が参加しました。菅生Ｐで仮眠して牡鹿総合支所隣りにある牡鹿 VC に集合。作業内容は田んぼの瓦礫の撤去。

ここは海が近いのでここまでに来る途中の家々の無残な姿を目のあたりに見て、津波の強烈な力、恐ろしさを感じました。今日作業する田んぼは海の近くにあるが大きい瓦礫はすでに撤去されていて２，３か所に分散されて積まれていました。

私たちは土の中に埋もれている小さな板や、鉄くず、魚網などを探して掘り出す作業ですが、震災から日にちがたっているせいか草が生い茂り根も張っていて作業は進みませんでした。また道具が人数分ないため棒切れを探してそれで掘ったりしましたが思うように作業はできませんでした。

二日目は鮫川地区という場所に行って側溝の掃除です。
ここは漁港のあった場所ですがすべて波に流されて、あるのは家の土台だけ、近くにある高台にある木の上のほうにビニールのようなものがひっかかていて高さは 20m ～25m 程でいかに大きな津波が襲って来たか想像を絶する。
側溝の中は砂、石、茶わんなどいろいろなものが混ざってびっしり入って固くシャベルでも中々はいらない固さでした。津波の力でここまで強く押されて固くなってしまったのか改めて津波の恐ろしさを感じました。

鮫川地区での　U字溝の清掃

２０１２年の支援活動について

２０１２年の支援活動は、１月は休みます。２月・３月は第３土日に実施予定です。４月以降の支援活動については、石巻・気仙沼と協議を進めています。
決定次第お知らせします。引き続き参加をお願いします。

ちばニュース読者より

ちば山の会　H会員

ちばニュース11月号の感想が、寄せられましたので紹介します。

毎回「県連盟機関紙」の配信ご苦労様です。
少し遅れましたが、11月号の感想です。
日頃、われわれは、山から限りない感動をいただいている。国が破れても山河はそのまま残っている。
杜甫はそう詠った。芭蕉も平泉でこの詩を引用し、山河を目の前に人の歴史に思いを馳せた。
山そして河(川)も、われわれに感動を与え、それぞれが人間を育んできた自然の象徴である。

君津ケルンの会の支援活動報告を読みました。清掃活動二日目の朝、中田川の水が綺麗に澄んで流れていて、小石まで洗われまるで沢の源流に近い流れのようで感動的だったという表現に、わたしも感動しました。
ときに、われわれ人間は、日頃の山河(山川草木)に対する感謝を償わなければならないと思います。
人間のその行為がまた、感動を自然から享受することになるのだと思います。
美しい光景です。
川の中は震災前の人々の生活を語っているようで、生き物にはたくましさがありました。海の方に滑っていった大ウナギには声援を送りたい気持ちにもなりました。
また、仮設住宅の老夫婦にはお辞儀を返すのみだったというのも、同地で、ささやかですが支援活動をしたわたしたちにも痛い程この気持ちがわかります。
東日本大震災支援活動は、個人的にもまだまだですが、「千葉県連盟45年の歴史から生まれた底力の結集ではないでしょうか。」
わたしもそう思いたいです。
支援への思いと行動力を具現化する存在として、揺るぎないものとして受け継がれ育まれていくことを願いたいです。

編集委員会よりのお願い

ちばニュースへの投稿・感想をお願いします。
山行報告・紹介したい山・沢、会活動の現状紹介など何でも結構です。写真があれば1，2枚付けて下さい。
原稿について少々細かいお願いをさせていただきます。
サイズ・A―4、余白・上下左右25mm、書式・MS明朝12P、で作成下さい。
そうしていただけると大変助かります。
〆切りは、翌月号に掲載を希望の場合は、前月の20日になっています。
それ以外は、常時受け付けしています。「ちばニュース原稿」として添付で送付して下さい。
送付先は、 danphiro@zpost.plala.or.jp 広木までお願いします。

千葉県連　45周記念トレッキング報告

ちば山の会　村尾　憲治

【山域】エベレスト街道（クーンブ山域）
【ルート】カトマンズ飛ールクラ＝モンジョ＝ナムチェバザール＝ターメ＝キャンズマ＝タンボジェ＝シャンボジェ飛ールクラ飛ーカトマンズ
【登山方法】ロッジ泊トレッキング（縦走）
【行動日】2011 10/15 成田発 10/29 成田着（15 日間）
ルクラからのトレッキングは 10/19～25（7 日間）
【メンバー】CL 広木国昭　広木愛子、金沢（君津山の会）、村尾（記録）

【記録・報告】
10/16 日　バンク発 10;15 でカトマンズへは、約 13;00 に着　サンセットビューホテルへ（このホテルは、日本人＝紘子さんの経営で和食がうまい。）
10/17 月　カトマンズ空港から国内便でルクラへの予定（12;00 発）だったが、風と霧？で欠航便が相次ぎこの日は乗れずにサンセットホテルへ U ターン。
10/18 火　18 日もさんざん待たされた挙句、なんとか 15:30 に乗れた。ルクラ着は 4 時過ぎとなり、トレッキングするには遅くこの日は、ルクラ（2840m）で 1 泊。
10/19 水　快晴の空のもと、これから 7 日間のトレッキングである。ルクラを 7:30 発。日程ビハインドの為、予定変更で本日泊まる予定をすこし北のモンジョ（2835m）へ変更。標高差はあまりないが、アップダウンがあり必要以上に体力を使わぬよう注意してゆっくり歩く。ルートは、街道に住んでいる村人たちの生活道路なので、道は整備されて歩きやすい加えて、高山へ入るからとはいえ、重い荷物はすべて現地で雇うポーターが運んでくれる。途中、お茶休憩も入れながらのんびりした部落の生活を見ながら登る。14:20 モンジョへ到着。
10/20　木　モンジョをでて（7:40 発）少し下ったデューダ川沿いで先行組 4 人と出会う。みんなエベレストやローツェをしっかり眺めて満足そうな顔で下山となった。
ここから標高 600 ほどの急登が続く。ゾッキョ（水牛とヤクのアイの子）の荷物運びとすれ違ったり、狭いスチール/ワイヤ製のつり橋を超えて休みながら登りきるとシェルパの村、ナムチェバザール（3440m）に到着（11:30 着）
早めだが、高度順応もありゆっくりと食事し、くつろいだ。
10/21 金　昨晩から雨模様。朝からしっかり雨が降っている。（今回この日だけが唯一の雨中山行となる。遅めの 9;40 発でエベレスト街道とは垂直に西方面に進む。景色はますます田舎の風情だが、ゴーキョピークからの帰りのグループもあり、人の往来は、予想以上に多かった。
雨は高所では雪となり山肌に着き、ターメ（3800m）の村も一面薄い雪に覆われて白銀の世界である。ターメの＜バレービューロッジ＞は、食事もおいしく、暖房もあり、当たりの宿であった。（14:00 着）
10/22 土　ターメの朝は、昨日の雨が嘘のような晴天。早起きして近くの山腹にある仏教寺院（ゴンパ）に散歩した。片道 30 分ほどで 3900m位のところに仏教関係者だけの寺院と集落がある。お寺からは、ドラがなり、お経の声がする。目の前にそびえるコンデリ山脈に朝日があたって眩しい。写真を多数とってふもとの宿に戻り朝食。8:45 に出発で来た道を東に戻り、昨日泊まった＜キャンプ DE ベルで昼食。その後エベレスト街道に戻って一路北へ。峠のロッジ＜タムセルク＞（3550m）に 15:30 着。宿の窓からタムセルク山とカンテガ山がドーンと見える。夜は停電が頻繁におこるが、みな慣れたもので、非常用バッテリー灯とろうそくで食事ができるレベルでしのいでいる。

10/23 日　朝はまたまた快晴で、散歩がてらでエベレスト、ローツエが見える丘のポイントまで戻りしばし見とれれる。宿は 8:40 発で今回の最終目的地としたタンボチェへ向かう。アマダムラムもそのとがった容姿をまじかに披露し、ここからは足元と山を見上げるのとで忙しい。お茶休憩の後は、2 時間の急登で（12:00）にタンポチェ到着。（ホテル　ヒマラヤン 3860m）広々と北側斜面が開けておりその向こうに、エベレストとローツエがくっきりと見える。そしてその右のアマダムラムも近くて迫力ある姿でせまり、ずっとここで眺めて遊べる感じだ。昼食後は、チョルテン（仏塔）のある山の山腹まで登り（4015m）、素晴らしい眺めと山座同定を楽しんだ。夕方は、ホテルの隣にあるこの地区で最大の寺院（ゴンパ）で、宗教儀式（お経とドラと笛）を味わった。

10/24 月　8:30 下山開始。登りで 2 時間かかった同じ道を 1 時間で下り、途中から右に入り、クムジュンで昼食、ゆっくり村を散策しながらシャンポチェ（3720m）に 14:30 到着。ここで連泊とし帰りの下り（約 9 時間）を省略して小型プロペラ機でルクラに戻る事にした。午後は毎度であるが深い霧が出て、散策にはむかず、宿でのんびり過ごした。

10/25 火　天気は、上々。なんでもこの日は、スカイダイブの大会があり小型プロペラ機で人を運んでは、9000m位からダイブしてハンググライダーを開きくるくると空を舞いながら降りてくる。世界中からのダイバーが集まり、楽しそうに空を舞っていた。（飛び降りの地点はマイナス 35 度くらいだという。）

我々は、それらを時々見上げながらも、暖かな小春日和を贅沢な山々の遠望散策である。途中エベレストビューホテルで 1 時間のコーヒーブレイクでエベレスト、ローツェ、アマダムラムを満喫した。ホテル近くの広場では、大きなヤクが寝そべって日向ぼっこしており、何とものどかな光景である。本日の散策は、山の景色や峠の小縦走など、ハイライトの一つとなった。

10/26　水　朝一番発で小型プロペラ機（6 人乗りチャーター）でルクラへ。遅い朝飯を食べ、昼過ぎのカトマンズ行をまったが、ここでまた天候での欠航があり 17 番目の我々の便の 2-3 本前まで本日のフライト終了！！なんと帰りの便でも 1 日足止めを食らう。しかも翌日の待ち番号が 20 番以降となり、明日も同じようにおとなしく待っていたら明後日の帰国便に間に合わない！カトマンズの旅行者（風）やガイドと共に作戦を練り、明日は、バラバラでも良いので、＜割り込みをかけて＞一人づつでもカトマンズで戻る作戦とした。

10/27 木　朝からキャンセルも出たためか、一人、一人、二人、という順番で我々4 人は午前中に、ガイド 2 人も午後にはカトマンズへ戻れた。散々もめてやきもきしたが、結果オーライとなり、この日の午後は、世界遺産のバクタプールと中心街のタメルでお土産など買い、夜はホテルでガイドらと打ち上げ（ご苦労さん会）を行った。

10/28 金　朝も最後まで街の散策とお土産屋さんを回り、13:30 発のタイ航空で帰国の途に着いた。 洪水のバクダットを経由し（たくさんの日本人家族の脱出に遭遇し）翌 29 日土早朝に成田に着き、15 日間のヒマラヤトレッキングツアーが終了した。

2 回も現地国内便で足止めを食らい、2 日間は停滞。場所や日程の変更を余儀なくされたが、何とか見るべきものは十分堪能し、無事に帰国できたのは、企画立案、CL で実行して頂いた広木さんのアレンジ、リーダーシップによるところ大でした。深謝、深謝です。

＜総括＞　　日程、トレッキング行程以外での雑感

＊ネパールは、都市部を中心に人口増（流入）で交通渋滞や排気ガス、砂埃がひどかったが、街や村人はみな元気で明るく、優しく親切だった。

（車の運転はしない方が良い）　子供たちも明るく元気良かった。

＊街道沿いに新しい学校やホテル/ロッジなどの建設ラッシュもあり、これから
この国がますます成長する感じかがした。
＊トレッカーは、欧州からの人が多く、特にドイツ、フランスが目立った。日本人
も年配者グループを中心に 5400～500mレベルのカラパタール、ゴーキョピ
ークまで完歩している人が多かった。道がわかりやすく安全ということか、(ガ
イドとポーター)はつけての単独行の人も案外多かった
＊食事は、現地人ガイドはダルバート(豆スープ＋ご飯＋おかず)が大好き。
我々は、餃子みたいな＜モモ＞トマトスープ、チキン等が合い、楽しめた。
おかゆやスパゲッティ、マカロニ、ピザ、等もあり。バラエティに富む。
＊高山病は、心配していた懸念事項だったが、(ダイアモックスのお蔭もあ
ってか)問題は出なかった。ただ事前注意や励行する事などを守るべし。
＊宿はロッジがいたる所にあり、その場で探しても可能なレベルだが、ガ
イドやエージェントを通しての方が良い部屋に泊まれる。
7 日間連荘でのトレッキングも 7 日連続フロ、シャワー無の生活も慣れれば
OK。最近コンビニでも売っている(ボディ)ウエットティシューも重宝。
＊外気は朝晩ゼロ度になり、ロッジ内の暖房は限られており、冬用シュラフが
欠かせない(風の旅行社の場合レンタル湯たんぽ，シュラフ、レストックあり)
＊カトマンズ～ルクラ間の小型飛行便は、欠航になるケースが多い。事前の
早い時間帯での予が好ましい。高度順応も含め日程のゆとりも必要。

サガルマータ・エベレスト・チョモランマ

ゴンパとエベレスト

参加者全員と現地スッタフ

2011 事故防止・経験交流集会の報告

教育遭難対策委員会　岡田　賢一

去る１１月１２－１３日、船橋県民の森「さざんかの家」にて、2011 事故防止・経験交流集会が開催されました。
「事故の再発防止」と「各会の交流」と「セルフレスキュー講習」を目的とするこの集会は2090 年より始まり３回目の実施となりました。本年は１４団体計１０１名の参加となり、前年にも増して盛況裡に終了する事が出来ました。今回の特筆すべき点は、県連盟としての東日本大震災に対する支援取り組み（特に吉田理事長を先頭にした現地への継続支援活動）により、県連盟活動への参画意識が大きく高まっている事に有ります。

初日には国土地理院の出前講習「地図から図る」「地図から読む」を行って頂き、地図作成を担う方よりの生の声をもお聞きし、また我々登山者からの疑問・要望等の情報交換も出来て有意義な講習となりました（地名は自治体の情報を基に等。また、最新の国土電子地図には送電線が載っていないという問題点に付いては、奇しくも１１月１２日の朝日新聞夕刊にも記事掲載されていた)。
続いて各会より「事故防止取り組み報告」と「発生重大事故の報告」を発表願った。会山行と個人山行のいずれでも重大事故が発生しており、その区別無く事故防止への取り組みが必須の課題と判断されます。
また、「ちば山の会」より山行計画書に関する報告と提案を受けた（捜索活動に必要な情報が必須事項他)。
その後の各会交流集会では、若手新入会員の紹介で多いに盛り上がりました。
二日目は救助隊主催にて、前庭で「搬送法」と立ち木を利用して「懸垂下降」標準化の実技＜バックアップの取り方等＞を実施したが、今後も継続した実技講習が必要と思われる。　参加者で会場を片づけ後、好評のうち無事終了した。

懸垂下降の千葉版スタンダートの指導より安全な懸垂下降をマスターして下さい。繰り返しの練習がポイントです。

ストック・雨具・シュリングゲを使っての搬出訓練。実際の山行では使用しない事が一番。でも、知っておいて損ない。

第5回　ワンコイン講習会　報告

女性委員長　中村　美代子

第5回ワンコイン講習会を実施しましたので下記のとおり報告をします。
参加いただいた会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

記

1、実施日　　　2011年11月27日（日）
2、会　場　　　市川市文化会館
3、参加費　　　ワンコイン（500円）
4、参加人数　　58人（スタッフ含）

女性委員会では、「いつまでも山に行ける体力を維持しよう」を目標に、正しく学ぶ、正しく学ぶ　を合言葉に「ワンコイン講習会」を実施しています。
今回は、全国連盟遭難対策部所属の「鳥越　彰夫」先生を迎えて、バランス講習会を実施しました。
山行中のケガや事故の多くは、体力の衰えから起こる事が報告されています。そして、高齢者は体力よりも先に「バランス感覚」がより急激に衰えるそうです。
鳥越先生は、平均台、バランスボール、等の外に、自作の登り下りの姿勢を撮影し、プロジェクターで映し出し、チェックし適切なアドバイスをしてくれました。
楽しい雰囲気で学ぶことが出来、とても有意義な講習会でした。

準備運動

バランスボール

平均台

登り坂のバランス

重心の移動

目線がポイント

重心は親指の付根

第35回　共済の今日と未来を考える千葉懇話会 報告

報告者　岡田（賢）広木

日　時　2011年11月24日（木）午前10時～午前11時10分

会　場　保険医協会会議室

出　席　県勤労者山岳連盟：広木・岡田（賢）、県商工団体連合会：長滝、千葉労連：広瀬、千葉土建：伊藤　県保険医協会：川口 各氏

欠　席　県民医連職員互助会：渡邉→大竹（担当変更）、全教千葉：徳増

司　会　川口 氏

議　題

1、この間の状況　全国・千葉懇話会

懇話会結成状況　33都道府県、9県で準備中

全国の自治体意見書採択状況

2011年10月25日現在　245自治体　5県114市83町43村

・2月3日…全国労山の斉藤義孝理事長を招き、自主共済の今後の方向性や運動方針などについて意見交換会を開催した。

当日は千葉懇話会から　千葉労山　広木、岡田（正）、岡田（賢）、古瀬、千商連　鈴木、田中、千葉労連　広瀬、　千葉民意連　渡邉、千葉土建　伊藤　保険医協会　川口　の１０名が出席した。

・9月26日…全国懇話会と東京懇話会の共催で、フリージャーナリストの東谷暁氏を講師に「共済問題学習会・ＴＰＰ（環太平洋連携協定）と共済規制の行方」のテーマで学習会を開催した。

・12月3日…全国懇話会の主催で「助け合いの共済の意義を考えるつどいー講演と懇親の夕べー」を開催予定

◎　3月に東日本大震災があり、2月以降は休止状態であったが9ヶ月ぶりに懇話会を開催。以下の意見が出された。

〇保険業法の再改定によって異議申し立てをすることが沈静化してしまった。

〇保険業法の適用除外の運動がメインの活動から外れてしまった。

〇一時より適用除外への動きが冷めてしまった。

〇適用除外のスタンス自体は変わっていないし、変えるべきではない。

〇ＴＰＰに対しても注視していかなければいけない。

〇民主党政権の変節を見逃してはいけない。

〇横のつながりも大切であり、多くの団体との交流も必要。

2、今後の活動について

毎月一回懇話会を開催してきたが、現状を踏まえ、情報交換の場としても必要なことから、今後は3～4ヶ月一度懇話会を開催する事になった。

3、次回会議・・・次回については春頃に開催することになった。

県連たより

県連盟連絡先

◎　千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
ＴＥＬ・ＦＡＸ：　043-306-1190
Ｅメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
ＪＲ総武線幕張本郷下車、海側　徒歩５分

◎　千葉県連ホームページ
http://www.cwaf.jp

◎　「ちばニュース」原稿送付先
newstoukou@cwaf.jp

◎　事故一報送付先
教遭委員長・岡田　賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Ｆａｘ：043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず送付の事

◎　連盟費振込み先
郵便振替口座　00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟

◎　東北関東大震災・支援金振込み先
口座番号：ゆうちょ銀行
00130-7-595190
加入者名　　佐藤　勝子
〒272-0023
市川市南八幡　1-25-16

★　助けてください

事務局のお手伝いをお願いします。
事務所の片付け・資料の整理などを、空いた時間でお手伝い下さい。一人でもお友達と一緒でも大歓迎です。
連絡は：広木まで・連絡先 →

県連盟よりのお願い

◎　１１月３日に全国評議会が招集されました。「個人会員制度第２次案」の討議が中心議題でした。
・評議員：鶴田副理事長（ちば山）
・傍聴者：松尾組織委員（こまくさ）
が出席しました。
鶴田評議員の報告を掲載してあります。ぜひ、一読をお願いしたい。
「個人会員制導入」に関する、意見質問をお待ちしています。

◎　**東日本大震災支援活動**
12 月・1 月は支援活動を、お休みします。2 月・3 月は、第３土日に・石巻地域で支援活動を実施します。
大勢の参加をお願いします。
◎　大震災支援活動は、４月で１年を経過します。１年間の活動の経験を活かして、新たな支援活動、支援地域を検討して行きます。
また、長期の支援を見越した活動を実施して行くために、ＮＰＯの立ち上げも視野に入れた活動を検討して行きたい。
引き続き、吉田理事長を中心に、支援活動に取り組んで行きます。
参加感想・報告・今後の活動に対する意見等をお願いします。

連絡先は、広木まで
Ｅメール
danphiro@zpost.plala.or.jp

県 連 活 動 予 定 表

12月			1月		
1	木		1	日	
2	金		2	月	
3	土	房総ロングハイク	3	火	
4	日	〃	4	水	
5	月		5	木	
6	火	役員会	6	金	
7	水		7	土	第11回房総郡界尾根縦走
8	木		8	日	〃
9	金		9	月	〃
10	土		10	火	役員会
11	日		11	水	
12	月		12	木	
13	火		13	金	
14	水		14	土	
15	木	理事会	15	日	
16	金		16	月	女性委員会17時救助隊定例会19時
17	土		17	火	
18	日		18	水	
19	月	救助隊定例会	19	木	理事会
20	火	ハイキング委員会	20	金	
21	水		21	土	
22	木	拡大検討部会	22	日	
23	金		23	月	
24	土		24	火	
25	日		25	水	
26	月		26	木	拡大検討部会
27	火		27	金	
28	水		28	土	
29	木		29	日	
30	金		30	月	
31	土		31	火	

発行 ： 千葉県勤労者山岳連盟
〒261－0013 千葉市花見川区幕張本郷 1－29－18 レジデンス幕張台101号
TEL･FAX 043－306－1190 （事務所には常駐していません）
Eメール rousanchiba@grape.plala.or.jp
発行責任者 吉田 哲治 編集責任者 広木 国昭